

石造物から歴史を学ぶ

5月14日～6月14日の間4回にわたり参加しました。身の回りには灯籠、鳥居、記念碑、地蔵、お墓などさまざまな石造物があります。これらについて座学と実地検分を通してその意味や歴史を学びました。講師は名古屋芸術大学講師の津田豊彦氏で、昨年に引き続きお世話になりました。

乾坤院に眠る緒川城主水野家四代の墓

地元にいながら乾坤院をくまなく歩いたことはなく、徳川家の誰のお墓があるのかよく知らなかったのが本音である。その意味では今回はとても収穫多き講座であり感謝している。



緒川城主三代の墓

緒川城は文明7年(1475)水野貞守が築いたが、三代までの緒川城主のお墓が本堂の裏手にあり、初代水野貞守、二代賢正、三代清忠のお墓は五輪塔である。墓石は笠付丸柱、笠付型、板碑型、一般的な角柱などあるなかでさすがに城主のお墓である、しかしさほど大きなものではない。このほか僧侶の墓は、ちまきのような形の無縫塔といわれるものである。

そして堅雄堂の隣に、水野家中興の祖四代城主水野忠政の墓、その南一段下がった所にその子で緒川城主忠守、その子下総山川城主となった忠元、さらにその子で岡崎城主となった忠善の三代の墓が三つ並んでいる。この墓は大きな五輪塔でさすがに立派なものだ。この三つは忠善が建てたとされている。



貞守、賢正、清忠の墓



忠守、忠元、忠善の墓

白山、立山、富士山の三山信仰

緒川の富士塚、村木神社には三山にお参りした碑がある。なかでも村木神社には多くの碑があった。講師の話では昔のこととて歩いて60日くらいで登ってきたらしいが、誰もが行けるのではない。

つまり体が弱くては登れないし、二月も仕事を休むわけだしお金も必要である。そのため村の代表として何人かが行く、あるいは庄屋とかお金持ちが費用を負担して代参するのが普通であったらしい。そういわれれば森の石松もお伊勢さんへ次郎長親分の代参であった。



三山信仰の碑



役行者像

そのようにしてお参りしてくることで、災いを防ぐ糧としていたということだが記録に残しているところに関心を覚える。

また村木神社には、奈良時代に吉野大峰山などの山を開いたといわれる役行者像があった。

仏様と死後の世界の関係

まもなく妻の母の一周忌を迎える、実は今回の講座で一番勉強になったのは法要と仏様の関係である。初七日に始まって49日の七日法要は、どんな意味があるのかさっぱり分からなかった。

それが分かったのだ、つまりこうだ-----

あの世へ行くのも裁判で決まる

人は死ぬとあの世へ行くが、あの世は六つの世界があるのだ。そのためどこへ行くかは裁判で決められる、**裁判をするのは十王、弁護するのは仏様**である。裁判は七日ごとに行われる、それが七日法要でそのため弁護して下さる仏様にすがり一生懸命お祈りをするのだ。

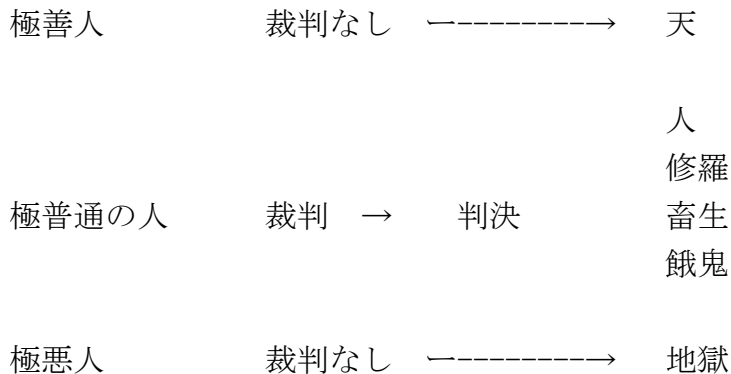
つまり少しでも刑が軽くなるように、お坊様にありがたいお経を唱えてもらい仏様に強力な弁護をお願いするのだ。

そして49日には刑が確定する、しかし百日目、一年目、三年目に救われる道が開けている。その上、七回忌、13回忌、33回忌にも再審が用意されている。何と有難いことか!!

裁判官は閻魔大王を筆頭に都市王、平等王、五道転輪王、五官王、変成王、太山王、宋帝王、初江王、秦広王

弁護士の仏様は 不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来

あの世は六つの世界(六道)



そして墓地の入り口には六地藏が多く見られる、これは死後の世界六道に旅立つ死者を守るためというのだ。いわばあの世への案内人だ。

そして、ここでもいろんな仏様がでてくるが仏様には次の種類?があるという。

仏の種類

- | | | |
|-----|-------|-----------------------|
| 如来 | ----- | 悟りを開いた人を導くことができる |
| 菩薩 | ----- | 悟りを開いた人 |
| 明王部 | ----- | 悪を懲らしめる 刀を持っていたり形相が怖い |
| 天部 | ----- | 仏を守る仏 |

笠寺観音は石造物の宝庫

6月14日には笠寺観音を訪れたが、裏手の墓地はもちろん隅から隅まで回って記念碑、供養塔、墓石などを見学した。



宮本武蔵の顕彰碑



六地藏

意外だったのは、二刀流の達人宮本武蔵の顕彰碑があった。これは武蔵の100回忌にあたる延享元年(1744)に弟子が建てたという。松尾芭蕉の碑も春雨塚、鳴海の浜を詠んだ「星崎の闇を見よとや啼く千鳥」の笠寺千鳥塚がある。かと思えばお相撲さんや将棋指しの碑もある。そしてよく見るのは戦争で亡くなった人たちの鎮魂碑、旧東海道筋だったことから馬頭観音も。そして多くの仏様-----阿弥陀如来像、地藏菩薩像、六地藏、延命地藏、教え地藏、学び地藏-----。

ここで見た六地藏はお地藏さんが6体あるのではなく、六面体にそれぞれお地藏さんが彫られているものだった。

このような物を見ると、人々が暮らしの中で御仏にすがって生きてきたこと、大きな出来事を記録する、優れた人を顕彰する行為などが後々の世に歴史を語り継いでいることをうかがうことができる。